

小樽商科大学 COC 事業における成果と課題

後藤英之

(小樽商科大学グローバル戦略推進センター産学官連携推進部門)

1. はじめに

本稿は、小樽商科大学において平成 25 年度より取り組んでいる「地（知）の拠点整備事業（以下、COC 事業）」における地域連携プロジェクトの成果と課題を報告するものである。

2. プロジェクトの概要と状況

(1) プロジェクト概要

観光地として名高い小樽市、ニセコ町、倶知安町を含む「しりべし地域」に「札幌」を加えた広域観光圏を対象とし、地域ブランドの確立と観光ネットワークの形成を通じて「総合観光地域」の創出を図る。

(2) 採択状況

小樽商科大学の地域連携プロジェクトでは、地域志向型研究・教育プロジェクト公募・運営が大きな特徴となっている。

表 1 は、平成25年度から平成27年度の地域志向型プロジェクトの公募状況推移である。平成26年度は地域連携活動の本格稼働に伴い、予算総額、申請数、採択数、参加教員数ともに前年度より大きく増加した。平成27年度においては、COC事業全体予算の縮減に伴い、プロジェクト配分予算の見直しを行った結果、予算総額は前年の3分の1となった。しかし乍ら、地（知）の拠点大学として、地域との連携関係を維持し、地域活性化を図って行く為には、地域ニーズに基づいた新規プロジェクトの創出、プロジェクトの継続が必要であるとの考えから、学内予算措置による推奨枠 6 件を新設した結果、申請数は30件（前年対比88%）、採択数は16件（前年対比51%）、参加教員数34人（前年対比55%）となった。申請数は、平成26年度は34件であり、平成27年度は条件が厳しくなったが30件の申

請があり、地域教育・研究に対する教員の意識向上が見られた。

地域志向型プロジェクト公募比較			
	平成25年度	平成26年度	平成27年度
公募区分	研究	研究・教育	研究・教育
公募回数	1回	2回	1回
公募締切	H25.12	第1回：H26.7 第2回：H26.9	H27.4
予算総額	250万円	2,000万円	700万円
1件当たりの金額上限	50万円	S:300万円 A:100万円 B:30万円	A:100万円 B:30万円 学長推奨枠:20万円
申請数	12件	34件 (研究20件・教育14件)	30件 (研究14件・教育16件)
採択数	6件	31件 (研究18件・教育13件)	16件 (研究8件(うち学長推奨枠2件) 教育8件(うち学長推奨枠4件))
参加教員数	8人	61人	34人

表 1. 小樽商科大学地域志向型プロジェクト公募比較

(出所：小樽商科大学)

図 2 に平成 27 年度の地域志向型プロジェクト一覧を示す。プロジェクト数は 16 件（研究 8 件、教育 8 件）で、研究プロジェクトは 8 件全てが昨年度からの継続、逆に教育プロジェクトは新規が 7 件、継続が 1 件であった。テーマが似ているプロジェクトの集約を行ったこと、小樽市を主体に学生の参加プロジェクトのニーズが高かったことが理由にあげられる。

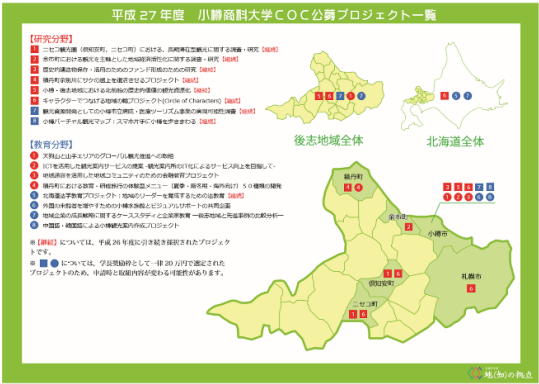


図 2. 平成 27 年度小樽商科大学COCプロジェクト一覧

(出所：小樽商科大学)

3. プロジェクトの成果

(1) 地域活性化に向けた連携ビジョン策定
地域志向型プロジェクトを地域とともに考え、より良いプロジェクトとしてPDCAを回す為に「地域活性化に向けた連携ビジョン(図3)」を策定した。連携ビジョンの中で最も重視したのは「評価」と「採択審査」である。まず「評価」においてプロジェクトの評価者については、地域から13名、学内からは学長1名のみで構成、地域の声を重視した配分とした。評価方法については、成果報告書により、5段階で評価することとした。「採択審査」については、審査員比率を地域と大学を1:1とした。事後的な評価に学外者が入ることはあっても、採択審査段階で学外の方が入る仕組みはこれまでになかったものである。

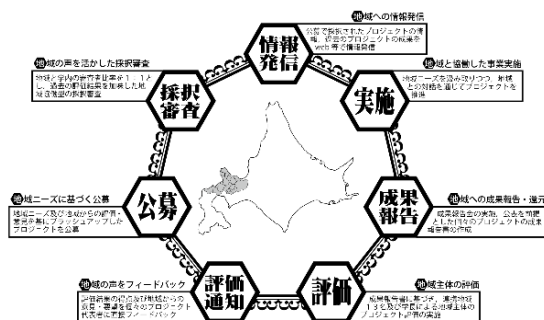


図3. 地域活性化に向けた連携ビジョン

(出所: 小樽商科大学)

(2) COC 採択大学との連携

北海道札幌圏のCOC採択大学による合同発表会を札幌市立大学COCキャンパス(まちの学校)で札幌市民を対象に開催した。本学研究員による研究発表のほか、札幌市立大学学生プロジェクトの発表が行われた。双方の大学の強みを活かした連携は地域の反響も大きく、今後も継続的に実施する予定である。

(3) 地方創生に向けた取り組み

地域連携活動の一環として地方創生に関わる総合戦略策定にも意欲的に取り組んだ。結果として、しりべし地域20市町村の内、小樽市

(座長)、余市町(座長)、積丹町(座長)、泊村(座長)、岩内町(座長)、蘭越町(座長)、ニセコ町(副座長)の7市町村への委員派遣を行うことが出来た。小樽市以外の町村との連携が進んだことを示しており、また、地域との緊密な連携、信頼関係が醸成された結果といえる。

4. プロジェクトの課題

地域との連携が密接になり多くの地域ニーズが大学に寄せられるようになる一方、教員とのマッチングが進まず、対応が難しいケースも増加している。理由として、本学教員の専門分野が地域に周知されていないこと、学内における地域貢献に係る意識が不足していることがあげられる。前者は、他大学等(COC採択大学、理系大学)との連携により一定程度解決されるものと考えられるが、後者は、学内でのコンフリクトを緩和するためにも、時間をかけて醸成する必要がある。今後、ゼミナール活動における地域連携システム化などのプロセスを経て、教員と職員が自発的に取り組む仕組み、本質的な地域連携への移行が必要と思われる。

5. おわりに

本学における、COC事業は今年3年目を終えたところである。地域との連携体制が構築され、多くの地域課題に関わる相談が寄せられることになったことは、COC事業の大きな成果といえる。今後COC+事業との協力関係の中で事業を推進することとなるが、地域との協働の流れが、COC+事業でも大きな効果を発揮するであろう。今後も本学会を通じて事業の進捗を報告していくものである。